

令和6年度文部科学省委託事業「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」 (全国学力・学習状況調査の CBT 化に向けた試行・検証)

本調査研究の目的

全国的な学力調査のCBT化検討WG「最終まとめ」を踏まえ、令和6年度からの順次CBTの導入に向けて、令和3年度以降、試行・検証により課題の抽出とその解決を繰り返し、段階的に内容等を拡充させながら、着実な実現へつなげる。

令和6年度の調査研究内容

A. CBT記述式答案の採点に関する試行・検証

CBT化により、記述式問題に対する児童生徒の答案も機械可読なデータとなることから、**機械採点の導入による採点の効率化を調査研究**する。

6～12月 記述式問題の自動採点プログラムの開発・運用

- ・記述式問題答案を適切な解答類型に分類できる自動採点プログラムの開発
- ・令和6年経年変化分析調査 記述式答案の採点試行
- ・学調本番を想定した採点に係る工数の推計

1月 CBT試行検証B事業で収集される記述式答案の採点

B. CBTでの調査実施等に関する試行・検証

全国の小・中学校を対象として、**オンライン方式での調査に向けた学校のICT環境、実施方法や学校支援方策、問題等について試行・検証**を実施。
令和6年度は、**試行・検証の最終段階として、ネットワーク等のICT環境に不安のある自治体を対象**とし、都市、ネットワーク等の**ICT環境に関するトラブルについて、できる限り多くの事例を収集**し、改善方策を事前に検証していく。

8～9月 自治体の選定 200校 10000人程度

9～10月 事前検証

- ・参加校で児童生徒が活用するICT端末をMEXCBTに接続し、ネットワーク・ICT環境の検証。
- ・特に必要があると考えられる学校には、事前検証時に本委託事業者が直接訪問。

11～12月 試行・検証

- ・小学校は国語・算数、中学校は国語・数学・理科・英語の教科調査と、児童生徒質問調査を実施。

1～3月 採点とIRT（項目反応理論）を活用した結果データの集計・分析、結果返却

C. CBT導入後の質問調査の設計・実施に関する試行・検証

児童生徒質問調査が全面CBT化したことを受け、今後のCBTでの**質問調査の構成・質問項目の構築の方法論や、適切な質問文・選択肢の在り方について調査研究**する。

9～10月 オンライン児童生徒質問調査に関する有識者会議の運営

- ・現状の課題（オンライン調査固有の論点、質問項目、質問文・選択肢）
- ・同じ内容で異なる質問方法の試行の具体的な方法、分冊方式の設計

11～1月 CBT試行検証B事業での試行・検証と集計分析

2～3月 質問調査の設計に関する方法論案の構築・取りまとめ

本試行・検証で得られた結果を、令和7年度の教科調査（中学校理科）CBT実施に活用